

社会資本整備審議会道路分科会
関東地方小委員会（平成23年度第1回）

議事録

○石田委員長

石田でございます。今日もよろしくお願いをいたします。

今日のご報告及び審議のメインになろうかと思えますけれども、中部横断道の目指すべきものとか、目標とか、おおよその考え方の妥当性などについて、いろいろな方々からご意見を伺うということを決めさせていただきまして、実際に、アンケート調査なりインタビュー調査なりをしていただきまして、今日、それのご報告をいただきます。

ただ、前回のこの関東地方小委員会から今日までの間に、東日本大震災という非常に大きなものがございまして、その中で、いろいろな議論がなされつつあります。今日は、そういう点も含めまして、ぜひ多様な点からご意見等をいただければ幸いですので、まず冒頭よろしくお願いを申し上げたいと思います。

今日の審議は、1つしかございません、中部横断自動車道（長坂～八千穂）の計画段階評価の試行でございます。これについて、まず事務局から説明をいただいた後で議論をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

審議 中部横断自動車道（長坂～八千穂）計画段階評価の試行

○事務局

それでは、資料について説明させていただきたいと思います。

まず、お手元の資料1から順に資料5まで説明させていただきます。少し量が多いのが恐縮でございますが、よろしくお願いをいたします。

では、資料1「第2回目小委員会での指摘事項とその対応について」ということございまして、前回の委員会の場でいただきましたご指摘とその対応についてまとめたものがこちらの資料でございます。

めくっていただきまして、「前回小委員会での指摘事項とその対応について」という表をご確認ください。大きく4つご指摘をいただいておりますので、その内容について解説

させていただきます。

まず、現道関係の件につきまして、久保田委員から、次回委員会までに交通事故減少効果も算出しておいてほしいということをございまして、それは、次のページに「別紙」とございしますが、141号の交通事故減少効果という形で試算をさせていただきます。

簡単にご説明させていただきますと、原案であります別線整備案・案①と、一部現道活用案・案②、それぞれにおきまして、表の2行目、交通事故の減少ということで、141号（延長50km当たり）の事故件数がどう変化するかというものを試算してございます。

結論から申し上げますと、どちらのケースも、現況に比べまして3割程度の減少が見込まれるという試算結果になってございます。

先ほどのページに戻りまして、意見聴取を行うに当たって、3点ご指摘いただきございました。1点目は、アンケートを実施する際に広域ネットワークの一部としての効果もあることを明示的に伝えるべきではないかというご意見。2つ目が、ヒアリングを実施するに当たっては、公共交通機関の影響を調査して、2回目のアンケートに反映させるべきではないかというご意見。3点目が、意見聴取に当たっては、わかりやすい表現で行うよう配慮すること。3点、久保田委員、石田委員長、小濱委員、味水委員からいただきございます。

こちらにつきましては、資料の一番最後についてございます第1回のアンケートのリーフレットをみながら、簡単にご説明させていただきます。

まず、広域ネットワークの一部としての効果につきましては、6ページ目であります。ここに「期待される整備効果」を掲載してございますが、一番右下、赤の帯で「もっと広域の整備効果も…」という形で、それ以外の5つの項目につきましては、地域に対する波及効果ということで整理させていただきますけれども、広域の整備効果についても、アンケートを実施する際にこういった形で紹介させていただきます。

また、公共交通機関への影響の調査に関しましては、アンケートの中で、対象として公共交通機関の方にもご意見をいただきございますので、そちらは後ほど資料の中で説明させていただきます。

わかりやすい表現でということをございまして、イラストですとか、表現ですとか、そういうものを最大限考慮させていただきます、わかりやすい表現に詰めさせていただきますとございます。

以上、前回小委員会での指摘事項とその対応についてございます。

続けて、資料2について説明させていただきます。「中部横断自動車道（長坂～八千穂）の計画段階評価の進め方について」でございます。こちらにつきましては、計画段階評価の手続の流れと、本日の小委員会でご議論いただくことにつきまして、委員の先生方の再確認の意味も含めましてご用意させていただいているものでございます。

まず1ページ目でございます。これも以前の委員会でご紹介させていただいたかと思いますが、計画段階評価のスキームを整理させていただいたものでございます。「政策目標評価型事業評価の導入についての基本方針（案）」ということで、公共事業の実施過程の透明性を一層向上させるために、事業の必要性等が再検証可能となるよう評価の手法を改善するとともに、計画段階での事業評価を新たに導入という形でスタートしてございます。

右側の絵をごらんいただければと思います。従前は、このフローの新規事業採択時評価、再評価、事後評価という流れで事業評価を実施してございましたが、22年度この施行以降は、計画段階評価ということで、新規事業採択時評価の前に実施をするという形で始めてございます。

ここで評価いただく内容につきましては、解決すべき課題とその原因の分析、またそれに対する政策目標の明確化、これを踏まえた代替案の比較、評価ということでございまして、こちらを評価いただきまして、対応方針を決定する。その後、都市計画とか環境影響評価といった手続を経ながら、新規事業採択時評価におきまして、必要性の再検証とか事業内容の詳細をチェックしていただくというような流れになることになってございます。

2ページ目でございます。「計画段階評価の進め方と今回の審議事項」の資料をごらんください。今回の長坂～八千穂に関するご審議の大まかなスケジュールを掲載させていただいてございます。平成22年12月2日に第1回目の地方小委員会を開催させていただきまして、ご審議を始めていただきました。23年1月には第2回目の小委員会。ここでご意見をいただいたことを踏まえまして、2月17日から3月25日までの間で第1回意見聴取を実施してございます。今回の第3回目小委員会におきましては、第1回意見聴取の結果を踏まえた第2回意見聴取の実施の方法についてご審議をいただくということが主目的でございます。

本日ご審議いただきました内容を踏まえまして、第2回の意見聴取を行いたいと考えてございます。第2回の意見聴取につきましては、対策案の評価について、第1回の意見聴取と同様の方々を対象に実施をするということを案として考えてございます。

以降、第4回目の地方小委員会におきまして、意見聴取の結果を踏まえた対策案の評価

をいただくという形で進めてまいりたいと考えてございます。

3 ページ目をごらんください。こちらでは、本計画段階評価の中で2回実施することとしてございます意見聴取につきまして、その大まかな方針を整理させていただいてございます。

1 回目でございます。こちらにつきましては前回ご審議いただいたとおりでございます。課題・目標・対策案の妥当性についてご意見をいただきます。

内容につきましては、周辺地域の課題について、私どもが提示させていただきました課題が5つございますが、そちらについて妥当かどうかのご意見をいただく。また、それ以外に重要な課題があるかというところについてもご意見をいただくというのが①でございます。

2 番目が、課題を解決するための目標についてでございます。こちら私どもが提案させていただきました5つの目標につきまして、妥当かどうか。また、それ以外に目標が考えられるかどうかということをご意見をいただいております。

3 番目は、対策の比較案についてでございます。別線案と一部現道活用案と2案ご提案させていただいてございまして、こちらにつきまして、ほかに考えられる対策案はないかということをご意見聴取させていただいております。

意見聴取の対象者でございます。沿線の住民の方、地元自治体、経済界、道路利用者等と大きく4つのカテゴリで実施をございまして、それぞれ記載させていただいておりのおりの方々を対象に実施させていただいております。詳細は後ほどまた説明させていただきます。

2 回目についてですが、1 回目で妥当性等伺ったことを踏まえまして、必要があれば修正を行い、再度、課題・目標・対策案を示した上で、対策案の比較、評価について、1 回目と同じ対象者に対してご意見を伺うということを考えてございます。

以上が資料2でございます。

続きまして、資料3をごらんください。「第1回意見聴取の結果について」ということで、2月から3月までに実施いたしました1回目の意見聴取の結果についてまとめさせていただきます。アンケート方式で行いました沿線住民の方、また道路利用者等の方の結果のくくりと、自由形式で文書回答としていただきました自治体の方々、また経済界等の方々と、大きく2つに分けて資料を整理してございますので、それを前提に話をお聞きいただければと思います。

めくっていただきまして、1ページ目でございます。まず、沿線住民・道路利用者等の方々に対して意見聴取を実施した結果でございます。先ほどごらんいただきましたアンケート表と見比べながらお話を聞いていただければと思います。

実施期間につきましては、先ほど申し上げとおり、2月から3月までの約1ヵ月間で実施してございます。

内容につきましては、周辺地域の課題について、これは選択式と自由回答というやり方でやってございます。問2が、課題に対する目標、問3が対策案。対策案につきましては、自由回答で、その他対策案はございませんかという形でアンケートを実施してございます。問4といたしまして、中部横断道一般的に期待すること、懸念することということで、これも自由方式でアンケートを実施してございます。

3番の方法別の配布部数と回収件数でございます。沿線住民の方は、沿線9市町村の全戸に対しまして8万部ほど配布をさせていただきました。うち回収した件数が4,225件となっております。また、道路利用者の方ということで、高速道路のSA、PAとか道の駅、また国道事務所とか自治体さんで希望される方に配布をしたものが15,000部ほどございまして、うち回収したものが2,003件でございます。また、WEBにてご意見を聴取したものが1,071件ほどございまして、合計しまして7,299件の回答をいただいているという状況でございます。

2ページ目をごらんください。沿線住民の方ということで、全戸に配布させていただいたエリアを示しているものでございます。あと、各市町村の世帯数を目安として記載してございますので、ご確認をいただければと思います。

実施につきましては、お手元のアンケート用紙を各自治会を通じて各戸に配布していただきまして、添付してある返信用のはがきで郵送していただいたという形の手法で実施してございます。

3ページ目をごらんください。こちらは道路利用者等ということで、希望される方に対して配布をしたものでございまして、配布場所といたしましては、各自治体でありますとか、高速道路のSA、PA、また道の駅といったところで配布をさせていただいてございます。配布位置を地図に落としてございますので、ご参考いただければと思います。

続きまして、4ページ目でございます。こちらからが結果になります。7,299件回収させていただいたうち、回答者の属性につきまして円グラフで示しているものでございます。

図1、手法別でございますが、沿線住民の方から返ってきたものが全体の約6割、道路

利用者の方から返ってきたのが3割、WEBが15%という形になってございます。

年齢別であります。10代、20代がかなり少ないことと、逆に60代の方からいただいているのが3割ということで、一番多く占めているという形になってございます。

性別につきましては、男性が6割、女性が3割という形になってございます。

職業別でございますが、会社員のカテゴリーの方から26%ということで、一番多くいただいております。他の職種の方々からは、おおむね同じようなバランスで出てきているということです。

図5、地域別でございます。沿線地域の方からご意見をいただいているものが約8割でございまして、その他地域が15%ほどとなっております。

また、図6と図7は、一部の方に伺ってございます。図6が、周辺地域にお住まいの方のうち、主な移動手段を伺ったものでございます。主な移動手段は、ほとんどが自動車という回答になってございます。図7が、周辺地域の外から来られる方が、どういった目的でいらっしゃるのかということをお聞きしたものでございまして、観光で来られる方が一番多くて40%、仕事、その他がそれぞれ2割弱という形になってございます。

めくっていただきまして、5ページ目でございます。(2)「周辺地域の課題」ということで、まず、当方から示させていただいている5つの課題につきまして、それぞれに対して妥当性をお伺いしたものでございます。

問1-1といたしまして、「提示した課題は周辺地域が抱える課題と思われましたか」という問いに対しまして、まず、四角で囲ってありますが、総括的に結果をまとめたものでございますので、紹介させていただきます。

私どもが提案させていただきました課題に対して、回答者全体の51~64%の方が「そう思う」または「ややそう思う」という回答をされてございます。そのうち沿線の方に限ってみますと、53~67%の方が「そう思う」または「ややそう思う」という回答をいただいております。

この沿線地域の方をさらに山梨県側の地域と長野県側の地域に分類いたしますと、括弧の中に書いてございますが、山梨県側の北杜市域が29~44%、長野県側の南佐久地域+佐久・小諸市で72~87%の方々が「そう思う」「ややそう思う」と回答されてございまして、特に長野県側の地域で「そう思う」「ややそう思う」という回答が多くなっている状況にございます。

なお、沿線地域のほか、その他地域では、40~49%の方が「そう思う」「ややそう思

う」と回答されているところでございます。

これが5つの課題に対する回答を総括的にまとめたものでございまして、以降、それぞれの課題ごとに回答がどうなっているかというのをグラフで分析しているものでございますので、少しお時間をいただいて説明させていただければと思います。

同じく5ページ目の①「地域の生産品の自動車輸送に時間がかかる」ということが地域の課題ではないでしょうかということでご提案させていただいているものに関しまして、左側の棒グラフ、これは棒の長さが回答の数を示してございます。色が回答の内容をあらわしてございまして、パーセンテージがその内訳ということでご確認いただければと思います。

まず、全体でございまして、青と水色の「そう思う」「ややそう思う」という方々が、全体で58%いらっしゃいました。沿線地域でみると、61%の方々が「そう思う」「ややそう思う」という回答をされてございます。これは、山梨県側の市域と長野県側の市域の2つに分けて分析をしてみますと、山梨県側の市域では、36%の方が青または水色でございまして、長野県市域では83%の方が青または水色の回答となっております。その他地域につきましては、44%の方々が「そう思う」「ややそう思う」という回答をしていただいているところでございます。

この全体に対しまして、各戸配布で返ってきたものと、SA、PA等で配布したものから返ってきたものと、WEBで返ってきたものというように、手法別に分類したものが右の3つのグラフになります。

上からご説明いたします。各戸配布をして、主に地域にお住まいの方から返ってきたと思われる回答でございまして、全体といたしまして、どの分類におきましても、先ほどお示した全体の数よりも、「そう思う」とか「ややそう思う」と回答された方の割合が多くなっているということがおわかりになるかと思っております。

一方で、一般道利用者、またはWEBの方々からの回答を分類いたしますと、ほとんどの分類におきまして、左側の全体よりも「そう思う」「ややそう思う」の割合が少なく出ているというような状況になってございます。

続きまして、6ページ目でございます。こちらは、回答別に、地域別、年齢別、職業別ということで、回答されている方の属性を少し分類したものをつけさせていただいております。

同じく「地域の生産品の自動車輸送に時間がかかる」という課題設定に対して、「そう

思う」「ややそう思う」と回答された方について分析いたしますと、まず地域別でござんただければと思いますが、緑色の割合がかなり高いということがおわかりになるかと思えます。長野市域の方を緑で表現してございまして、長野市域からこういったご意見が多く寄せられているということがわかれるかと思えます。

また、職業別をござんいただきますと、赤で表現させていただいている部分が両方とも多く出てございまして、こちらは会社員とか公務員の方のカテゴリーでございまして、そういった方々から「そう思う」「ややそう思う」というご意見が出てきているということがみてとれるかと思えます。

逆に、「あまり思わない」とか「そう思わない」というご意見をいただいている方の分類をみますと、地域で見ますと、赤の北杜市、山梨県側の市域の方から出てきている割合が多くなってございまして。

同じく職業別で見ますと、緑色の方々、「そう思わない」と回答いただいている方は42%いらっしゃいますが、これがパートの方、主婦の方、学生の方、無職の方というカテゴリーを緑で表現してございまして、そういった方々から「そう思わない」というご意見が多数寄せられているという結果になってございまして。

最後に、「わからない」ということにつきましても同じように分析いたしますと、地域別にみると北杜市域で多く寄せられてございまして、年齢別で見ると、「わからない」という回答をいただいている方の6割以上が60代以上の方ということになってございまして。同じく職業別でござんいただくと、パート＋主婦＋学生＋無職の方々から「わからない」という回答が多く寄せられているという状況でございまして。

めくっていただきまして、7ページ目でございます。このページ以降14ページ目までは、先ほど5つの課題のうち1つ目の課題についてご説明させていただきましたけれども、以降、残りの4つの課題につきまして、同じように分析をさせていただいてございまして。結果といたしましては、先ほどの産業に関する設問の結果と同様の回答の分析結果となっております。数字自体は多少前後しておりますけれども、おおむねの傾向としては、今ほど説明を差し上げたものと同じ傾向になってございまして、時間の都合で、ご説明は割愛させていただければと思えます。

ざっとみていただきますと、7ページ目が医療、「救急医療施設への救急車搬送に時間がかかる」ということが課題ではないかということに対するお考え。9ページ目が観光でございまして。「主要な観光地間の連携が不足している」という課題設定に対するご意見。1

1ページ目が生活、「買い物、通勤などの日常生活の移動が不便」ではないかという課題設定に対するご意見。13ページ目が5つ目の「国道 141号の走行性・安全性が不足している」のではないかという課題設定に対するご意見という形になってございます。

15ページ目をごらんください。今回のアンケートにおきましては、周辺地域の課題に対しまして、先ほどの「そう思う」「ややそう思う」という回答とあわせて、「他に重要と思われる周辺地域の課題」はございませんかというように、自由回答でお聞きしてございます。こちらは 7,299のうち、この間1—2に回答いただいている方々が 2,073件ございます。こちらの方々につきましてまとめたものが下の表になってございます。

ただ、自由回答ということでご意見をいただいておりますので、次のような加工をしてございます。表の右下に米印で書かせていただいておりますが、回答をいただいた 2,073件のご意見について、意見を細分化して、同類の内容ごとに分類しているという形のものでございます。具体的に申し上げますと、「自然環境への配慮をしながら早期整備の実現をしてほしい」というご意見が出てきているものについては、「自然環境への配慮をしながら」という部分につきましては、道路整備の内容に関するご意見と受けとめまして、そちらに分類をさせていただいて、「早期整備の実現を」という部分につきましては、道路整備に対する期待に分類されるものであろうということで、そちらに分類させていただいたという形で、たくさんの自由意見をいただいておりますので、そういった形で少し処理をさせていただいたものがこちらの表になってございます。その中から代表的なものを抽出しているというようにごらんいただければと思います。

まず、ほかに課題はございませんかという問いに対して、明確にこういう課題がありますというようにいただいたご意見を、左の表の青い太線の上に掲載しております。この3つがクリアにご意見をいただいているものでございます。「高齢化、過疎化による既往産業の衰退」でございますとか、「隣接行政区との文化・教育等の交流の活性化」が課題だというご意見。また「公共交通機関の整備」が課題だというご意見。大きくこの3つのご意見が出てきてございます。

青い太線から下の部分、また右のものにつきましては、ほかにありますかという問いにはクリアにお答えいただけていないのですけれども、貴重なご意見ということで、大きく幾つかに分類させていただきまして、整理をさせていただいております。

「道路整備への期待」ということで、「なるべく早く開通して、観光面に役立てたらと思います」というご意見ですとか、「工場誘致、雇用の創造等、経済的に効果大」という

ご意見、「沿道の人々が騒音問題に悩まなくてよくなる」というご意見、こういった期待に関するご意見をいただいております。

「道路整備への懸念」というカテゴリーでは、「道路整備が優先されて、自然が失われる」のではないかとのご懸念でありますとか、「貴重な八ヶ岳の景観を保護する」というご懸念、「交通量がふえるため、公害等の問題が必ず起きるのではないかと心配です」といった声が寄せられております。

左の表の一番下、「道路整備内容」についてでございます。こちらにつきましては、「自然が豊かな地域なので、自然を守りながら、道路の建設をしてほしい」というご意見、「極力、景観を損なわずに、極力各地域民家から遠い施設設定を期待します」というご意見、「特色あるサービスエリアを設けて、地域の活性化を促す」というご意見、こういったご意見が寄せられております。

右にまいりまして、道路以外の施設整備に関するご意見もいただいております。医療施設を充実してほしいというご意見ですとか、老人ホームとか保育園の充実というものがご意見として出てきております。

「道路整備の進め方」に対するご意見といたしまして、「大きな震災が起きた現状において、横断道よりも、被災地の復興のために予算等を使うことが重要だ」というご意見ですとか、「もっと住民にわかりやすく説明する必要がある」といったご意見が寄せられております。

また、その下につきましては、問1—1で伺っております「そう思いますか」という問いをもう少し詳しく解説していただいているようなご意見をカテゴリーしております。例えば、「141号が通行どめの場合、迂回路がない」ですとか、「道幅が狭く、長距離輸送トラックが道幅いっぱいに通行するため、地元の生活道路としては危険である」ですとか、当方から提案させていただいている5つの課題と同様のご意見をいただいているものが、黒い太線の下でございます。

自由意見につきましては、こういった形でいただいております。16ページをごらんください。問1—2でいただきましたご意見を、地域別、年齢別、職業別に分類して分析をさせていただいたものが16ページ目でございます。パーセンテージで大きく分類はさせていただいておりますけれども、先ほど申し上げたように、自由回答を処理する過程で、正確に実数がそういうご意見を指し示しているというものではございませんので、おおむねの傾向というようにご理解いただければと思います。

まず、「高齢化、過疎化による既往産業の衰退」というご意見につきましては、地域で見ますと、緑色の長野県側の地域から53%ほどご意見をいただいております。職業別で見ますと、会社員＋公務員の方々からいただいているのが44%ほど占めております。

「隣接行政区との文化・教育等の交流の活性化」というご意見につきましては、同じように長野県側の方からたくさん声が寄せられているということが顕著な特徴でございます。

「公共交通機関の整備」につきましては、山梨県側の地域から寄せられているものと、あとはその他地域の方からいただいているという傾向が顕著でございます。職業別で見ますと、緑色のパート＋主婦＋学生＋無職の方からいただいているご意見が約6割という結果が出ております。

以上3つと同様に、道路整備に関する期待とか懸念、道路整備の内容に関するご意見、施設整備に関するご意見、進め方に関するご意見につきましても、同様に分類して分析してございます。

期待に関するご意見につきましては、長野県側の地域から6割ぐらいの方からご意見をいただいております。年齢別で見ますと、60代以上の方が64%を占めているという状況でございます。職業別でございまして、ここで少し特徴的なのは、紫色で示してございますけれども、農業の方から多く声が出てきているという結果になってございます。

道路への懸念に関するご意見でございますが、ご意見をいただいた68%の方が北杜市域、またその他地域から出てきているご意見でございます。職業別でございまして、37%の方がパート＋主婦＋学生＋無職の方、あとは自営業の方が20%ということで、ほかの項目と比べて少し高い数字になってございます。

道路整備の内容に関するご意見でございます。こちらにつきましては、年齢別でございまして、61%が60代以上の方からご意見が出てきてございます。

道路以外の施設等の整備に関するご意見について見ますと、意見をいただきました80%の方が北杜市域の方。また、職業別で見ますと、パート＋主婦＋学生＋無職の方が50%を占めているというのが特徴的な結果になってございます。

道路整備の進め方に関するご意見でございます。地域で見ますと、北杜市域の方から出てきているご意見が56%という形。年齢別で見ますと、40代＋50代の方からのご意見が多いという状況でございます。職業別で見ますと、自営業の方から出てきているご意見が多くなっているという状況でございます。

続きまして、17ページ目をごらんください。今までご説明を差し上げましたのが、5つの課題に対するアンケートの結果でございまして、(3)では、5つの目標に対するご意見を同じような形で分類・分析をしております。

まず問2-1でございまして。私どもから提示した目標については、「周辺地域が抱える課題を解決するための目標だと思いますか」という質問に対する回答を大まかにまとめたものが四角の中でございます。

国提案の各目標に対しまして、ご回答いただいた方々のうち54～63%の方々が「そう思う」「ややそう思う」と回答いただいております。

そのうち、地域で見ますと、沿線地域の方からいただいたもののうち56～66%が「そう思う」または「ややそう思う」と回答いただいております。これは、先ほどと同様に、山梨県側の地域、長野県側の地域というように分類いたしますと、山梨県側、北杜市域では32～41%、長野県側、南佐久地域+佐久・小諸市からは78～88%の方々から「そう思う」または「ややそう思う」というご意見をいただいております。

その他地域でございまして、42～51%の方々がそういった回答をされているという結果になってございます。

以降、同じようにグラフで分類をさせていただいておりますけれども、まず全体だけ説明させていただきますと、左側の棒グラフが、①高速のインターということで、「高速道路インターチェンジの時間短縮」という目標に対して、回答いただいた方の約58%が「そう思う」「ややそう思う」という結果になってございます。

沿線地域で見ますと、61%の方がそういったご回答をいただいているところでございます。

地域を分類いたしますと、山梨県側の方からは34%、長野県側の方からは84%の方から「そう思う」「ややそう思う」というご意見をいただいております。

その他地域で見ますと、46%の方から「そう思う」「ややそう思う」というご意見をいただいております。

同じように、こちらにつきましても、沿線の方にお配りしたものの、一般の方にお配りしたものの、WEBでいただいたものという分類をさせていただいておりますが、先ほどの課題に対するご回答とほぼ同様の傾向でございまして、各戸配布をさせていただいた方から回答していただいている結果につきましては、「そう思う」「ややそう思う」が、「思う」というものが少し高目に出ているという結果でございまして、一般道路利用者の方に

配布をさせていただいたもの、またWEBでご意見をいただいたものにつきましてはやや低目に出ているという傾向になってございます。

続きまして、18ページ目でございます。こちらにつきましても、同様に、地域別、年齢別、職業別に、いただいた回答を分類させていただいてございますけれども、こちらも課題のときと同様の回答の傾向になってございまして、例えば、「そう思う」という項目でござらんいただくと、長野市域からいただいているご意見が多数であったり、「そう思わない」というところでもらいただくと、山梨・北杜市域からいただいているご意見が約7割という傾向になってございます。こういった傾向につきましては、先ほどとおおむね同様とお考えいただければと思います。

以降、そのほか4つの目標に対するご回答を分析したものが続きまして、こちらにつきましては説明を割愛させていただきます。19ページ目が医療で、21ページ目が観光に関するもの、23ページ目が生活関係、25ページ目が代替路という目標に対するご意見ということで、数字の前後はございますけれども、おおむね同様の傾向の回答結果になっているとご理解いただければと思います。

27ページ目が、私どもが提案した目標のほかに考えられる目標はございませんかという自由回答形式のものに対する回答、ご意見をまとめたものでございます。こちらにつきましても、先ほどと同じように意見を分類させていただいて、整理させていただいてございます。

質問に明確に回答いただいている方が青線の上で表示させていただいてございまして、「より安全な一般道とする」というのを目標としてはどうかというご意見、また「若者の働ける会社の誘致」というご意見、「公共交通機関の充実」というご意見、こういったご意見をいただいております。

それ以外のご意見ということで、先ほどと同じように、道路整備への期待や懸念、また整備内容に関するご意見、道路以外の施設整備等のご意見、進め方のご意見、または当方から提案させていただいています目標に関するご意見という形で分類をさせていただいてございまして、こちらにつきましても、おおむね、先ほどご説明させていただきました課題に対するご意見と同様のご意見をいただいているということでございます。

28ページ目でございます。課題のときと同様に、目標に関するご意見につきましても、その他ありますかというご意見に関しましても、分析をさせていただいてございます。

まず、「より安全な一般道とする」という目標を立ててはどうかというご意見ですけれ

ども、地域別で見ますと、51%の方が長野県側からお寄せいただいているという状況。年齢別で見ますと、特徴的なのは、60代以上の方々が57%を占めるという状況でございます。職業別でみると、会社員＋公務員の方が42%を占めるという状況でございます。

「若者の働ける会社の誘致」というご意見につきましては、63%の方が長野県側からご意見を出していただいているという状況になってございます。

また、「公共交通機関の充実」ということにつきましては、先ほど、課題のところでもご意見をいただいておりますけれども、同様に、山梨県側、北杜市地域からのご意見が57%を占めるというのが特徴的な結果になってございます。

以降、期待ですとか懸念、道路整備の内容に関するご意見、施設整備、進め方に関するご意見を分類してございますが、こちらにつきましても、先ほどの課題と同じような傾向となっております。

続きまして、29ページ目をごらんください。（4）他に考えられる対策はございませんかと。課題、目標ときて、次は対策案に関するものでございます。こちらにつきましては、対策案のどちらにしますか、どちらが妥当ですかということは聞いてございませんで、対策案、この2つという案の立て方が妥当かどうかというのを確認するために、ほかにこういった地域の課題ですとか目標を達成する対策案は考えられますかというご意見をいただいております。こちらについては自由形式でいただいております。先ほどと同様に分類してございます。

いただいたご意見の中で、対策案ということでご提案いただいているものが、青い線の上2つでございます。「在来道路の拡幅整備や改良、住民密着型の道路整備を願いたい」というご意見。また、「国道141号線のバイパス整備により、走行性・安全性を向上し時間短縮を図る」という対策。この2つが対策案という形でご回答いただいているものでございまして、その他たくさんいただきましたご意見につきましては、先ほどと同様に、期待と懸念、整備の内容、施設、進め方という形でさせていただきます。

なお、対策を当方は2案示しておりますけれども、どちらの案がいいとか、そういったご意見もいただいております。そちらについても表の右の下で表記させていただきます。

30ページ目でございます。こちらのご意見を地域別、年齢別、職業別に分類したものでございまして、1つ目、「在来道路の拡幅整備や改良、住民密着型の道路整備を願いたい」というご意見を分析いたしますと、地域別でみると、68%の方が北杜市域から回答さ

れている方となっております。職業別でみますと、緑色のパート＋主婦＋学生＋無職の方からお寄せいただいているという形になってございます。

2つ目の「国道 141号線のバイパス整備」でございますが、地域別でみると、同様に北杜市域の方が65%を占めてございまして、職業別でみますと、会社員＋公務員の方が42%ということで顕著な傾向になってございます。

以降、期待や懸念に関するご意見につきましては、先ほどと同様の結果ということとご理解いただければと思います。

31ページ目でございます。ここは「中部横断自動車道へ期待すること、懸念すること」ということで、フリーでご意見をいただいているものでございまして、これまでご説明させていただいたとおり、自由回答でいただいているものと、ここに出てきているものもおおむね同じような形で出てきているというようにご理解ください。

少し事例でご紹介させていただきますと、まず「道路整備への期待」ということで、「隣接する静岡県とのアクセスが向上するので、観光や農業の連携が可能になってくるのではないか」というご意見、「災害による代替路確保等に、本当に期待しております」というご意見、「救急車の搬送時間の短絡」というご意見。

また、懸念につきましては、「自然の景観が大幅に失われる」というご懸念でございませうとか、「従来国道沿いの商業が衰退」するのではないかとご懸念、また、既存道路の整備・管理がおろそかになってしまうのではないかとご懸念をいただいております。

右側にまいりまして、「道路整備内容」につきましては、「美しい景観を破壊しないように配慮してほしい」というご意見でありますとか、「インターチェンジ付近の観光、商業対策」が大事だというご意見、また、「旧清里有料は傾斜が急で、高速道路としての安全性には疑問がある」というようなご意見もいただいております。

道路の進め方に関しましては、「国の財政を圧迫することへの懸念」ですとか、「説明をきちんとしてほしい」というご意見をいただいております。

こちらにつきましても、32ページ目で、地域、年齢、職業別に分類をしております。大まかに分けますと、期待に関するご意見は、長野市域の方から会社員＋公務員の方を中心に多く寄せられてございまして、道路整備への懸念に関するご意見につきましては、山梨・北杜市域の方からパート＋主婦＋学生＋無職の方を中心にいただいているという状況でございます。道路整備の内容に関するご意見につきましては、やや長野市域の方々から

のご意見が多く、進め方に関するご意見につきましては、北杜市域の方々からのご意見が多いというような、先ほど来ご説明させていただいている、ほかの質問での結果と同様の結果とご認識いただければと思います。

以上が沿道住民の方々、一般の道路ユーザーの方を対象としたアンケート調査による意見聴取の結果でございます。

めくっていただきまして、33ページ目でございます。地元自治体・経済界のご意見をいただいております。こちらにつきましても、同様に、1ヵ月間の期間を設けまして、課題と目標、または対策案の妥当性についてのご意見をいただいております。

対象者と回収件数でございますが、沿線の9市町村、また、物流業界、観光業界、医療機関、サービス業、公共交通機関ということで、記載されています団体の方々に、82ヵ所に依頼をさせていただきまして、回収させていただいたのが62ヵ所ということでございます。

こちらにつきましては、すべての問いが自由形式ということで、郵送で回答していただくという形で調査を行っております。

34ページ目以降、その結果を整理したものでございます。34ページ目から35、36が地元自治体9市町村からいただいたご意見を全文掲載させていただいております。赤字で示しているものが、当方から提案させていただいております課題とか目標、対策案のそのほかのご意見というようにご理解いただければと思います。

少しだけ紹介させていただきますと、まず北杜市でございます。北杜市からは、産業・物流の面、観光の面、雇用機会の面、救急医療の面と4つの課題を挙げられてございまして、基本的には、当方から提案させていただいている課題と合致していると考えてございます。1点だけ、雇用機会の面で、北杜市域での過疎化の問題とそのメカニズムについて記載していただいております。課題としては、企業誘致を行って、産業人口の増加、地元市民の雇用を増やして、人口の流出に歯どめをかけていかなければならない。現在は、市外への通勤をしている市民も多く、勤務地まで時間がかかり、転出または市内の中で転居が増加していて、結果的に過疎化が進んでいる地域もあるということで、日常生活の移動性に課題があると考えます、というご意見をいただいております。

目標につきましても、おおむね私どもから提案させていただいているものと同様の目標をいただいております。移動性の時間短縮ですとか、災害時の代替路の確保ということでご意見をいただいております。

対策案につきましては、環境や景観への負荷等の低減を図るために清里有料道路の利用が望ましいというようなご意見をいただいております。

めくっていただきまして、35ページ目でございます。こちらは佐久市、小海町、36ページ目が川上村、南牧村という形で記載させていただいておりますが、基本的には、当方から提案させていただいたものと整合するようなご意見をいただいていると認識しております。

37ページ目でございます。こちらにつきましては、経済界等ということで、物流、観光、医療機関、サービス業、公共交通機関の方々からいただきましたご意見を、共通するものを整理させていただいたというものでございます。こちらにつきましても、赤字で表現しているものが、当方から提案させていただいているもの以外ということでありまして、基本的には、示された課題や目標に対してご理解をいただきつつ、さらに、例えば対策案として、141号の拡幅が重要ではないかというようなご意見をいただいているところでございます。

また、公共交通機関の方からいただいたご意見の中で、課題のところがございますように、「その他に鉄道やバスなどの公共交通機関を利用せずに自家用車に依存していることが公共交通機関の廃止を助長することになる」ですとか、目標のところ、「利用客が減少することにより、鉄道等は公共交通機関としての役割がなくなり、廃止を迫られることになる。地域との連携、役割分担をさらに検討すべき」というようなご意見もいただいております。

長くなりましたけれども、以上が第1回目の意見聴取の結果でございます。

こちらを踏まえまして、「第1回意見聴取の結果のまとめ（案）」ということで資料4でございます。課題に対するご意見、目標に対するご意見、対策案に対するご意見につきまして、事務局といたしまして、こういった形でまとめたいというものを整理したものでございます。

1ページ目、課題についてでございますけれども、提示した5つの課題については、回答いただいた沿線住民、道路利用者の方々のうち半数以上の方から「そう思う」「ややそう思う」というご意見をいただいた結果になってございますこと、あわせまして、自治体とか経済界等の実感ともおおむね整合していると考えてございます。

また、その他ありますかということいただいた回答についてですけれども、高齢化、過疎化の話、隣接行政区との交流の話、公共交通機関の整備の話につきましても、表の真

ん中の「ご意見に対する見解」というところに整理させていただいておりますけれども、いずれのご提案につきましても、当方で設定させていただいております課題設定の中で読めるというように認識をしてございます、という見解をまとめさせていただいております。

また、道路整備への期待とか懸念、整備内容とか、その他いただいたご意見につきましては、懸念として、環境とか景観とかすごく心配ですというご意見をいただいておりますけれども、今後、計画を具体化していく中におきまして、環境影響評価ですとか、そういった中でしっかり検討していく参考とさせていただきます、という回答でまとめさせていただいているところでございます。

2 ページ目が目標についての考え方を書かせていただいております、課題と同様に、半数以上の方から「そう思う」「ややそう思う」というように共感をいただいているということと、地元自治体・経済界ともおおむね実感が整合していると認識してございます。あわせてご提案いただいた「より安全な一般道とする」とか「若者も働ける会社の誘致」「公共交通機関の充実」に関しましても、現在提案させていただいております目標でしっかり対応が可能と考えてございます。

その他のご意見につきましては、先ほどと同様でございます。

3 ページ目でございます。対策案についてでございますが、その他ということで2 つご意見をいただいたものにつきまして、参考資料という形で、現道活用、現道の改良をすべきではないかというご意見をいただいておりますので、そちらにつきまして、説明の資料を参考資料の1 ページ目でご用意させていただいております。

解説いたしますと、141号の現道は、雨量規制区間がございます。図でみていただきますと、青のハッチをかけている部分ですとか、黄色のハッチですけれども、線形不良の箇所が無数にございます。

また、地域の課題を改善するためには、この多数の箇所を改良していくということが必要になっていきます。141号には、一部で急勾配区間、最大9%とか、現道改良をするのは難しいという区間が存在してございますし、現道を改良して使うという案では、災害時における代替路という機能の確保は難しいと考えてございまして、そういった観点から、今回は原案のとおりで整理をしてはどうかと考えてございます。

資料4に戻っていただきまして、期待、懸念等々に対する見解につきましては、先ほどと同様でございます。

4 ページ目に、また同じように期待、懸念、整備内容に関するご意見に対する見解についても、同様にまとめさせていただいているところでございます。

こういった1回目の結果、またその結果のまとめ(案)に基づきまして、資料5で第2回アンケートの案をまとめさせていただいてございます。

第2回アンケート案を少し説明させていただきますと、めくっていただきまして、アンケート案の2ページ目に、アンケートの目的を記載してございます。また、米印で、「第2回アンケートの内容につきましては、第1回アンケートの結果及び自治体や経済界等からのご意見、また地方小委員会でのご意見も踏まえて、作成しています」という一文を入れさせていただいてございます。

4 ページ目で、課題と目標を再度掲載させていただいてございます。ただ、1回目のアンケートの中でいろいろといただいたご意見を踏まえまして、解説文の中身を少し充実させていただいてございます。斜体で記載させていただいている部分がそちらでございますので、ご確認いただければと思います。

6 ページ目でございますが、前回同様、新たに整備する案と現道活用案ということで、2回目のアンケートを聴取したいと考えてございます。

7 ページ目、「具体的な特徴の比較」ということで、両案の解説文が書いてございますが、その欄外に米印で、1回目の意見聴取におきまして、整備の内容とか環境、景観が心配だというご意見をいただいておりますので、今後、計画が具体化されていく中で検討を行いますという形で解説文を追加させていただいてございます。

8 ページ目であります。対策案についてということで、質問1が、今回の対策案で期待される効果について、6 択でご意見をいただきます。質問2が、案1と案の2、そのいずれが評価されるでしょうかという質問でございます。質問3が、質問2で案を選んだ理由は、何を重視したのでしょうかというところをご意見をいただいております。2. 「その他」ということで自由ご意見をいただくという構成で2回目のアンケートは進めてまいりたいと考えてございます。

アンケートを聞く対象等につきましては、1回目と同様と考えてございます。

少し長くなりましたけれども、資料の説明は以上でございます。

○石田委員長

随分いろいろな説明をしていただきましたけれども、これからはご自由にご意見を頂戴

したいと思います。お願いします。

今日は、大きく言うと、資料4の結果のまとめ（案）について、これでいいでしょうという承認をいただければありがたいということと、アンケート（案）について、このようなものでいければいいですねということになれば、ありがたいということですか。

○事務局

はい、その2点、ご審議いただければと思います。

○石田委員長

だそうですが、いかがでしょうか。

○久保田委員

全体の流れの確認も含めて、ちょっと伺いたと思います。

第1回で、その他の対策案についての自由記載で、1回目の質問3で、ほかの対策案というのを聞きました。自由回答で答えていただきました。それについての資料4の3ページのところで、出てきた自由回答に対する見解がここに書いてありますと。この見解は、第2回アンケートをするときにお示しになるんですか。

○事務局

結論から申し上げますと、ご提案いただいたことについては、対策案として第2回アンケートの中には、並びで入れることはできませんというのが事務方の案でございまして、この見解に関しましては、アンケートの結果ということで、ホームページでしっかり公表させていただいて、そこは説明させていただこうかと考えておりますけれども、アンケートの中にはこの見解は今のところは入れる予定はございません。

○久保田委員

第2回アンケートの8ページ、アンケートそのものの一番ポイント中のポイントが多分質問2ですよね。どちらがいいですか。「1案」「2案」「どちらでもよい」。④「どちらも不適切」は、線を引いてあるのはやめるということですね。

○事務局

済みません、説明をはしょってしまって恐縮ですけれども、前回の委員会で、第2回アンケートの素案ということで資料で配付させていただいてございますものからの変更点を見え消しで記載させていただいております。

変更した理由ですけれども、質問2に関しては、前は「どちらも不適切」という回答があったのですが、今回、課題と目標と地域の意見を踏まえて妥当であろうというような解釈を前提にするのであれば、それを解決しないととれるような「どちらも不適切」という回答は少し矛盾するかなと思っておりまして、案としてはそれを削除して、「1案」か、「2案」か、「どちらでもよい」という3択でいかがかと考えてございます。

○久保田委員

それで、私は今回のアンケートはここがポイントのような気がするのです。つまり、1回目のときに、1案でも2案でもない別の考え方をもっていた人がいて、自分はそれを表明したと。第2回は同じ人に聞くわけですね。だから、同じ人が第2回答えようとしたら、多分その人は前と同じ考えをもっているわけだから、自分の考えにマルをしようとしたら、そもそも選択肢になってないと。なぜ自分が表明したことが載ってないか。それは、全員の表明した案がここに載るわけではないので、しょうがないのですけれども、自分の答えた案についてはどういう扱いになって、なぜ第2回ではこの2つの案だけが残っているのか、最初からこの2案なのですが、とにかく第1回で聞いたという事実があるので、それについて第2回でどういう扱いになっているのかというのは、皆さん相当気にされると思うのですけれども、そこはこのままでよろしいのでしょうか。

○事務局

少し事務的なお話になる点、ご容赦いただければと思うのですけれども、1回目のアンケートの結果と、今回委員会でご審議いただく結果を踏まえて、こういう議論の結果このように扱いますということを、アンケートの資料の中に反映させるかどうかというのをいろいろ検討してみたのですけれども、いかんせん、ちょっとボリュームが多いということもあって、今の事務方の考え方といたしましては、アンケートの表紙に、1回目のアンケートのお礼と、その結果をホームページに掲載させていただいておりますという紹介を載せさせていただくということと、先ほど、2ページ目の欄外の米印のところで、1回目のア

アンケートをいただいた結果ですとか、自治体さん、経済界さん等からのご意見、また小委員会でのご議論も踏まえて2回目のアンケートは作成しておりますというところをもって、そういった議論の過程の中で今回ここに掲載できなかったということをご認識いただくという、すこし手前勝手な整理かもしれませんが、そういった考え方で原案は作成してございます。

ホームページで公表としていますが、もちろん紙として、例えば、自治体さんでお配りいただくときに一緒に配っていただくとか、そういった形でしっかりと結果のまとめですとか委員会でのご議論の結果というのは周知はさせていただきたいと考えてございますが、クリアに、このアンケートを受け取った方が、おっしゃるように私の案はどこにいったというのにお答えができてないのは事実でございます。

○久保田委員

この一連の最後にしますけれども、私の考えは、このアンケートをやるときに、別紙でいいから、第1回アンケートの単純集計も含めて、第1回アンケートの結果こうでしたと。それについて我々はこう考えますという見解まで入れたものも含めて、それを読んでいた上で、すべての方に読んでいただいた上で第2回アンケートをしたほうがいいのではないかと思います。

○石田委員長

ほかにかがですか。

私もちょっと意見があって、これ重要な意見なのでちゃんと聞いてほしいんだけど、まとめ（案）のところで、半数以上の方がご賛同いただいておりますと書いてあるのですが、地域差が随分ありますね。山梨県側と長野県側で随分違いますね。しかも、北杜市からいただいた回答数は2,853件で、ここには2万世帯ぐらい配っておられますから、回収回答率は14%ぐらいですね。南佐久と佐久・小諸を合わせると3,236で、こちらには6万世帯ぐらい配布していますから、5%強ですよ。こういう回答率に差があって、しかも随分傾向が違っているのを足し合わせて、合わせて半数を超えていますからいいということには絶対ならないと思うんだけど。

科学的にコントロールされたサンプリングをきちんとしているのであれば、こういうことは、ある意味では平等だから、モニタリングの結果としてはいいかもわからないけれど

も、こんなふうに構造的に差があつて、しかも回答率も随分差があるというときに、足し
てというはちょっと変だと思いますよね。そこのところはよく考えないと。

それと関連するんだけど、6 ページ目に地域別、年齢別、職業別にクロス表が載っ
ていますが、これも、それぞれの属性別の回答率に差がなければ、こういうクロス集計を
することに意味があるけれども、少なくとも地域別には回答率が随分違います。年齢別と
職業別の回答率のチェックをするための数字がないのでわかりませんが、多分間違
ってますよね、この集計の仕方も。北杜市の中でどうだ、10代の中でどうだというなら話
はわかるけれども。

しかも、それをもって全体で超えちゃっているからオーケーということにはならないし、
ここはちょっと久保田先生と考えが違うんだけど、例えば全体のやつだけ集計したも
のを載せて、短くすると簡単にせざるを得ないですよ。そうすると全体のやつだけとい
うことになると、それはまた変な話なので、こういうのはきちっとしたほうがいいんじや
ないかと思いますけどね。

いきなり委員長がこんな発言をして申しわけないのですけれども、任務重大ですし、ち
ゃんとした議論をしたいので、なあなあで終わらせたくないの、あえて申し上げました。

ほか、いかがですか。

○味水委員

今かなり強烈な話もありましたが、もう1つ、先ほど久保田先生が、1 回目のアンケー
トが反映されているというふうに答える人が感じたほうがいいというのはおっしゃるとお
りだと思いますし、1 回目答えて、2 回目にもう一回答えようとしたとき2 回目があると
書いてあったなと思って答える人が、結局は同じ2つの案を比較するというふうになると、
えーと、何だったんだったけというふうに思うこともあると思うのです。

こちらのとりまとめのところ、代替路の確保ができないから 141号線の拡幅の話は対
象とできないとあるのですけれども、また、抜本的な対策が必要だから困難だとあるの
ですが、これはどのように困難なのかというのを説明したほうがいいと思うのです。

ほかにも、1 回目のときに、中核的な病院を何個もつくったらどうだとか、いろいろな
話があったと思うのですけれども、少なくともこの道路という枠の中で出てきた明確な提
案、いろいろな市町村のところで出てきたわけですから、③の案にするかどうかはまた別
としても、141号線の、参考資料にも載っていますが、こういった整備がどれほど困難な

のかというのは説明が欲しいなと思います。

もしこれが、いや 100億円でも 200億円でもかけて整備ができるというのであれば、当然候補になってくるだろうし、実はこれを改良するには何千億円とかかるから、現実的に無理なんですよというのであれば、またそれはそれで説明をしておいたほうがいいかなと。素人的にみると、とりあえず道路を膨らませればいいじゃないかというように感じるのは、結構素朴に理解ができるところだと思うので、なぜ無理なのかというのをアンケートの回答者にとってわかりやすく説明を加える。もし対応可能であれば③の案にするとかという、目にみえて1回目のアンケートが意味があったんだなというように伝わる仕組みを検討されてはいかがかなと思います。

○二村委員

どのように申し上げようか、いろいろ考えていたのですが、先ほどの久保田先生の意見に関連しますが、選択肢として1案、2案、どちらでもいいということになりますと、一部の反対したい人たちの選択肢がないわけですね。言葉は悪いですが、まずその方たちの気持ちを逆なでしないほうがいいと思います。実はもう1点、とても気になったのですが、アンケートの集計の15ページですが、主な意見の内容ということで3点、出ていますね。例えば、ほかに重要と思われる周辺地域の課題があるのではないかと考えますと、もしかすると、道路整備への懸念の中に入っている、「貴重な八ヶ岳の景観を保護する」というのも、周辺地域の課題のうちの1つとして入れてもいいぐらいの大きい問題なのかなと思うんです。

例えば、ここを4項目にして、この「景観を保護する」というようなことを十分に配慮しながらも、地域の他の問題に対する解決策として道路というものを考えていくというようなことはあり得ると思うのです。ですから、道路建設反対の人たちを全否定してしまうと、彼らの意見を完全に無駄にして、無視した形になってしまうと思うのです。ですから、まず無視はいけないと思います。やはりここは、道路の整備による効果、影響としては、経済的な活動であるとか、医療面での問題というのも十分に重要なわけですが、やはり八ヶ岳の景観というのは十分にこれから考えていくべき問題であると思いますので、そこは、こちらとしてできる限りのことをします、ただしこれを手段として使わせてくださいというような姿勢があって初めて道路建設が実現できるのではないかなと思いました。

○石渡委員

アンケートですから、多数決ではないですね。当然のことながら、事務当局で計画をつくったときはいろいろ検討したはずですね。ただし、計画に対して漏れがあるかないかを確認するためにアンケートをして、その結果をみて、計画当初これがいいと思ったけれども、別の案のほうがいいんだということを計画当事者が考えれば、それを取り入れればいい。逆に、アンケート結果をみても、当然、こういう意見が出るだろうという想定と同じであれば、これが一番適切な計画ですと説明すれば良くて、アンケートを何回もやって、多数決で決められる話じゃないですよ。

アンケートをやったということは、いろいろな漏れがないかどうか、最初の原案が間違っていないかどうか、それを計画当事者が検証するわけです。

特に、例えば景観問題で、計画で考えた以上に非常に強い考えがあるというなら、そこは原案をもう少し修正するとか、そういう性格のものじゃないかと思うのです。

ですから、北杜地区ではこういう希望があるだろう、佐久地区ではこういうあれがあるだろう、多分それが想定どおりだったのであれば、そのことが検証されたということじゃないですかね。逆に佐久ではこういう意見が出ると思っていたら、反対の意見があった、それでは計画を直しましょうというなら、それはそういうことになるんでしょうけれども。その上で、原案で漏れているところがあったら、それはその次のアンケートで補充すると。また、アンケートを出したんですから、もちろん公表しなければいけないし、説明する義務はあると思うんです。それは基本的な話だと思う。

○牧野委員

これだけ時間をかけて、アンケートの項目のところから意見をいただきながらつくってきたわけですから、これはアリバイづくりのためのものではないということを協力していただく地域住民の方々にきちんとお知らせする必要があると思います。なので、2回目のアンケートにきちんと1回目の傾向と分析を載せる。詳しいことはWEBなりペーパーなりでいいかと思いますが、アンケートの中にきちんと書いていただけたらなと思います。

山梨側と長野側でこれだけ意見が違うということもきちんとお伝えした上で、次のアンケートについて地域の方々からまたご意見をいただくというような形で進めてほしいと思います。

○久保田委員

皆さんのおっしゃるところに私も賛成なので……。

第2回アンケートをみると、3、4ページが「第1回アンケート結果を踏まえた課題と目標」ということですね。3、4ページの上の1行目のタイトルですね。ただ、先ほどおっしゃったように、第1回アンケートを踏まえたという部分は、説明の中のゴシックのところだけであって、全体としては、前からあった5つの課題と5つの目標がそのまま載っているだけなんです。

だから、本来は、この次に、第1回アンケートでわかった道路整備上の課題みたいなものが追加されて、先ほどの八ヶ岳の景観とか、観光地としてスルーされてしまうんじゃないとか、日帰り観光地になってしまうんじゃないとか、そういう懸念もいろいろ出てきているわけだから、そういうものも課題として正直に幾つか挙げた上で、アンケートの中で、道路整備上の課題としてどれが一番心配ですかというような設問を加えてしまって、景観だとか、観光地として危ないんじゃないとか、皆さんが何を一番心配しているかというのを知るアンケートにすればいいんじゃないかと思うのです。それを追加していただきたいのと、先ほどの選択肢の選び方については、もう少し別の意見をもっている方も答えられるような選択肢の提供にしたほうがいいのではないかと思います。

○石田委員長

私も申し上げようと思っていたのですけれども、質問1と質問2の間に、心配とか懸念とかありますかというのを第1回のアンケートでいっぱい自由記述で寄せていただいているわけですね。実際、自由記述の件数でいうと、期待することと懸念することが全部で7,000件近くあって、他をぐんと引き離すわけですね。皆さんの一番関心の高いところとされますので、それはきちんと受けとめて、アンケートの中に反映するということがあってもいいのかなと思います。

○事務局

いろいろごもっともなご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。

皆さんから出ております、1回目のアンケートの結果をきちんとお知らせするという点については、全く異論がないところだと思います。事務局のほうから、知らせないとい

けないんだけど、物理的な課題があつてみたいな話がありましたが、物理的な課題は、当然、枚数が多いとか何か、いろいろ出てくるんだとは思いますが、何らか工夫をして、きちんと1回目に聞いた意見をお知らせした上で、アンケートというのはいいんじゃないかというご意見もありましたけれども、いずれにしても、何らかフィードバックするというような形ですということは、当然しないといけないと思いますので、ぜひその方向で工夫をしていきたいと思います。

それから、もう1つ、味水先生から話があつた点ですけれども、たくさんの方から現道を直したらいいのではないかなという意見もいただいています、これについては、もう少しきちんとお答えしていかないといけないと思っております。きょうも参考資料で、先ほど事務局のほうからもお話ししておりますが、これでは、多分味水先生も聞いていて十分おわかりいただけなかったのかもわかりませんし、一般の住民の方といいますか、そういう方々にも、こういう内容だけでわかってもらえるかどうかというのは非常に心配な部分があると思います。

もうおわかりの方もいらっしゃると思うので、ちょっと冗長になるかも知れませんが、ここでいたかったことは、2行目にあります60キロで走れるような道路をつくるということになりますと、カーブの曲がりぐあいですとか、勾配ですとか、そういったものにおのずと緩やかなカーブとか緩やかな勾配ということが条件として入ってくるわけですけれども、そういった条件を満たして道路設計をしようとする、50キロの中で半分ぐらいのところは現道を拡幅するとかということではおぼつかなくて、結果的に別の線をつくらなければいけないところが半分ぐらいになると。

それから、勾配については、これは本当に物理的な限界で、高いところと低いところを結ばなければいけないということで、特に、下の縦断図がありますけれども、長沢というところから須玉インターの中央道のところまでというのはかなり急勾配でおりていまして、現道のところでも、青いマルがありますが、非常につづら折りのところが141号でありますけれども、そういうつづら折りをして勾配を稼いで、何とか中央道までおりてきているというのが141号の現道なわけです。

これを緩やかな勾配で60キロで走れるような形で降りようとしても、現実にこの高さを降りないといけないので、そうすると何かループのようなものをつくるぐらいしか方法はなくて、結局大回りをするという方法しかないわけで、そうすると、お金の問題というよりは、物理的にこの路線が引けないというようなことではないかと。

だから、それは、結局、今の案のように清里のほうを、北を回って、この図面で上を回っていくことが難しいのであれば、もうこの計画自身を断念せざるを得ないみたいな関係になってきているものですから、そういうところをちゃんとわかってもらわないと、意見を出した人が、現道現道といっているのに、何であくまで別線でないといけないのかというようなことをずっとわからずに進んでいく。そうすると、意見をいっても一緒じゃないというようなことにつながってくると思うので、この辺の構造的な制約については、もう少しわかりやすく、わかってもらう努力をした上で、ではここをどうしましょうかというようなことで合意形成を図っていかなければいけないと思っております。

○石田委員長

もう予定の時刻が迫っておりますけれども、ほかにいかがですか。

○二村委員

少し気になった点があるのですが、アンケートをみますと、どうやら北杜市側はこの建設問題に対してはかなり冷めているとも取れる結果になっています。ですが、自治体のほうの意見を拝見しますと、つくりたいという、むしろ積極的な方向なのかなと見受けられます。アンケートをした人たちと、そのアンケートをした人たちをまとめている市との意見の食い違いということに関して、北杜市に限らずちょっと事情を聞いていただけたらいいかなと思います。

○石田委員長

でも、回答してくださった方が関心が高いというふうに思うのであれば、北杜市側のほうがはるかに高いので、一概に冷めているとはいえないかもわからないですね。

○二村委員

確かにそうですね。

○石田委員長

あと、幾つかお願いがあるのでありますが、15ページでいうと、回答 2,073件と総数があって、かつ、先ほどいいましたように、16ページには、こういう集計表も載せないほう

がいいと思いますけれども、地域別、年齢別、職業別というようにカウントできるわけですから、それぞれのご意見はどこかとわかっているわけですね。そうすると、何で15ページのようにそれぞれの件数が書いてないのかなというのは、ものすごく不自然な気がしますね。道路整備への期待と懸念と道路整備の内容というのはそれぞれ何件ぐらいあるのか、その下の項目は何件ぐらいあるのということがわかっているはずですよ。

○事務局

済みません、説明の中で少し申し上げたのですが、自由にご意見をいただいているものを細切れに切って、分類の箱の中にどんどん入れていって整理しているものですから、ここに出てくる実数にどれだけ意味があるのかといわれたときに、少し根拠的なものがないのではないかというふうに……

○石田委員長

そうしたら、16ページなんかもっと意味がないじゃないですか。

それと、33ページに、インタビューを、あるいは文書で丁寧に書いていただきましたということですが、地元自治体はこれしかないからよくわかるんですけども、経済界等はどういう理由でここにされたんですか。

なぜかという、各委員の方もそうだと思いますけれども、非常に熱心に要望をいただく団体の方がおられまして、そこは入っているのか。あるいはそれにたぐいするようなところ、NPOとか地域団体というところとコミュニケーションはあるんですか。ないんですか。この中にも入っているんですか。

いいんですけども、すごく大事な、大きなプロジェクトだから、もっと丁寧にしないといかんのじゃないかなと思うんです。回収率が非常に低い。余り統計的な意味もないアンケートで半数超えたからオーケーなんて、これはちょっと乱暴過ぎますよね。もうちょっといろんところとコミュニケーションをとりながら丁寧に進めていかないと、本当に評価とか、ちゃんとした我々のこの小委員会での判断とか承認を得るということには多分ならないんじゃないかと思うんです。だから、そのところだけ強くお願いをしておきますので、よろしく願います。

ほかはいかがでしょうか。

○牧野委員

今、委員長からありましたけれども、地元で環境保護活動をやっていたり、環境の教育をやっていたりという団体がたくさんございます。そういう方々からいろいろな意見書が我々委員のほうに送られてきておりまして、それも目にしております。ぜひ地元でそういう方々と意見交換をする機会をもつていただければと思います。こういうことって、ずっと後々のところでこじれたりして、工事の間中、皆さんいろんなところでいろんな思いをされるようなこともあるかと思いますが、意見を伺うということであれば、意見聴取の対象者の中に、そういうことをやっている団体も、取り上げてヒアリングをしていたらと思います。

これは希望ですので、ぜひご検討いただければと思います。

○石渡委員

もちろん意見を伺うのは重要なことだけれども、アンケートというのがいいのか、あるいは自由に意見を伺いますというやり方もあると思います。アンケートをやったのだから、次は別の方法で。アンケートした結果はこうだけれども、もっと幅を広げて、もう少し自由に意見が言えるとかという形で……。

アンケートというのはやっぱり数字になってしまいますからね。何対何ということだけれど、本当にそれはただ数であって、貴重な意見なのかどうかを確認するようなやり方が生産的じゃないかと。アンケート結果について、意見を知るという面でいっても、それを数字だけで判断しろといわれたら、なかなか難しいんじゃないかと思います。

○味水委員

先生方のおっしゃるとおりだと思います。先ほど二村先生が、景観を保護するとかという話で、こういう意見も主な意見のほうじゃないかというようにあったと思うんですが、いろんな人がいろんな表現の仕方をすると思うんです。騒音が激しくなるから反対するというのであれば、逆にそれは、そういう表現をしているかもしれないけれども、静穏な社会を望んでいる、それがこの地域では大事なことなんだというように。表現はいろんな表現がされてくるかもしれないけれども、要は、この地域はこういうふうにしたいのねという、このような解釈をした上でこのような意見にまとめましたというプロセスをちゃんと

明示していればいいと思うので、地域の課題とか、地域の目標というんですか、それをよりポジティブな表現でそれぞれ抜き出して、こういう解釈でそれは正しいかどうかというのはまた聞いていけばいい話ですから。

ただ肯定的だとか否定的だだけではなくて、それを肯定的にとらえらるれば、この人たちはどういう意見なんだろうかと。先ほど、道路部長から 141号の話もありましたが、もしかしたら、これは別に高速道の移動を求めてなくて、40キロぐらいでいいから、安かろうほどほどかろう的な社会を求めているという意見かもしれませんし、先ほどループの形という話がありましたが、それぐらい極端なことをしても、本当につくれないのだったらあれですけれども、お金が幾らかかかったって、高速道路じゃなくて現道ベースの道路のほうがいいという意見だったら、それも1つの案かもしれませんし、すべての意見を同じ方向で並べるような仕組み。

市民団体がどうだとか、いろいろあると思いますが、なぜこの人たちには聞いて、では委員に対して意見をいってきたら、その人たちの意見は聞くんですか、黙っていると聞いてもらえないんですかという話にもなりかねないと思うので、どういう基準でその人たちに話を聞くんだという基準を明確にさせていただきたいと思います。逆にいえば、こういう基準だからこその人たちにしか聞きません——極端な話ですけれども、それは余りよくないと思いますが、その基準を明確にしていれば、そういう基準で対象を選んでいるのねというようにわかってもらえると思うんです。それもあわせて検討していただけるといいかなと思います。

○二村委員

念のため、先ほどの私の意見ですけれども、「八ヶ岳の景観を保護する」を入れるべきだといったわけではなくて、これも入れてもよいであろうという1つの提案でございます。そうするべきだとは申しません。でも、恐らく、経済活動のほうを主体としたご意見の方も、景観を壊してしまえというふうに考えていらっしゃる方はいないと思うので、入れておいてもいいのではないかと思います。

また、この意見（八ヶ岳の景観を保護する）を落とすことによって、何となく恣意的な感じが出てきてしまうので、全体が何となく不真面目な、不誠実なイメージをもってしまいう気がします。できればここは真面目に、誠意をもって対応していただきたいと思います。

○石田委員長

同じ関東地整で、東京外環ですね、時代も、規模も、立地条件も違いますけれども、あそこは私が知っている限りは、出前セミナーとか、オープンハウスとか、そういうのを全部で400回ぐらいやっているんじゃないですか。リクエストがあると、必ずどこへでも行きますという丁寧なことをやっていたから、都市計画決定のプロセスが円滑に進んだわけですね。用地問題へのご理解も非常に進んでいると伺っております。あそこまでやれとはいいませんが、二村先生がおっしゃった、誠意ある、ちゃんと聞く耳もってますということを常にアピールし続ける、発信するということが本当に大事なと思います。

それで、これは質問ですけれども、資料2の2ページに今後の進め方が書いてございまして、事業評価部会というのは、大体このころとか、そういうのは決まっているのですか。あるいは逆に、こっちのそれなりの成果が出るまで開かれないというように考えたほうがよろしいんですか。

○事務局

事業評価部会というのは、この件だけではなくて、整備局全体のいろいろな事業をやっているところの再評価とか、そういったものも含めたものを一括して審議していただく場面ですので、これ自身は通常であれば年明けに開かれるのですけれども、そのときにこの件についてどんな報告ができるかというのは、この検討次第になります。

○石田委員長

とすると、きょう、私も随分厳しいことをいいましたし、ほかの先生方からももうちょっと丁寧にとのご意見をいただきましたので、これで第2回意見聴取に入るというフローチャートになっていますけれども、もう一回ぐらいきちんとやったほうがいいのかなとも思いますので、その辺も含めて、この小委員会の進め方について検討してみてください。もう一回ぐらいやったほうがいいんじゃないのとは思いますけれども。

○事務局

わかりました。そうします。

○石田委員長

済みません、お忙しいのに、勝手に言い出してしまいました。

はい、どうぞ。

○牧野委員

大したことではないのですが、資料3の30ページの表の中で、下から2番目の「道路以外の施設等の整備に関する意見」のところ、数字がちょっと合わないかなと思ったんです。100にならない。

○事務局

そうですね、間違えていますね。失礼しました。

○牧野委員

そこだけです。

○石田委員長

それでは、もしもうなければ、司会の不手際で15分ぐらいオーバーしておりますけれども、審議についてはこれぐらいとさせていただきます。